

2022 年頭所感



一般社団法人日本アルミニウム協会
会長 木村 良彦
(三菱アルミニウム株式会社 代表取締役社長)

新年あけましておめでとうございます。年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染症の影響から需要回復の動きがありました。アルミ圧延品出荷量も前年比で増加し、特に自動車材の回復が顕著でした。半導体不足や東南アジアからの部品供給不足など懸念材料はありますが、一部自動車メーカーは今年 1 月の生産計画が過去最高水準になるとの報道もあり、アルミパネル採用車種の増加と相俟って、今後も需要増が期待できます。半導体製造装置関連向けのアルミ材も好調を継続しており、また、世界的な EV シフトへの加速化に伴い、リチウムイオン電池向け箔は過去最高を記録するなど、明るい材料が増えてまいりました。

一方、中国の電力制限を背景とするマグネシウムや金属シリコンなど副原料の調達懸念は、資源の中国偏在リスクを改めて認識する形となりました。足元は、昨年 9 月のような供給不安は和らいできたものの、中長期的には安定した調達が課題となっております。

また、米中貿易問題や中国の過剰生産能力の問題など、楽観視できない要素があり、世界で拡大している新型コロナウイルスの変異株の動向も気になるところです。

こうした中、協会事業として、「アルミニウム VISION2050」実現に向けた取り組みに引き続き注力致します。昨年度、資源循環（リサイクル）については、アルミ展伸材における循環アルミ使用率 50%を目指すために「アルミ循環委員会」を設置し、傘下に「自動車」、「アルミ缶」、「スクラップ見通し」の 3 分科会を立ち上げました。

本年は土台形成ということで、自動車分科会では、自動車材が循環アルミを使用できるように、循環アルミの不純物を低減する取組みや成分規格を新たに設定することを目指します。また、アルミ缶分科会では、UBC（使用済みアルミ缶）の輸出抑制のための方策検討を、スクラップ見通し分科会では、将来のスクラップ発生量を推測する手法の確立に取り組んでまいります。

展伸材のアルミニウムの循環率を高めていく上で鍵となる「不純物低減」と「不純物無害化」の2つの技術課題については、材料メーカー、大学、国の研究所に加え、自動車会社などのユーザー企業にも参画頂き、国家プロジェクトとして実用化に向けた研究開発を行います。

政府の方針に従って、カーボンニュートラルに向けた取組みも進めてまいります。政府は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言し、2021年4月には「2030年に2013年度比46%のCO2削減」という新たな目標を表明しました。また、経団連では「低炭素社会実行計画」を2021年度から「カーボンニュートラル行動計画」と改め、2050年に向けたビジョンの策定と2030年目標の見直しを各業界に求めています。これを受けて、当協会では2020年3月に策定した「アルミニウム圧延業界の温暖化対策長期ビジョン（2050）」を基本として検討を進め、「アルミニウム圧延業界の2050年カーボンニュートラルに向けたビジョン」および「2030年目標」について年始早々に公表する予定です。

協会事業の3本柱であります「新規需要の開拓」「広報活動の強化」「人材育成の強化」にも注力するのは言うまでもありません。

「新規需要の開拓」については、産業用熱交換器向けアルミ材の開発について、NEDOの先導研究を2021年度以降2年間継続しており、給湯器や化学プラントなどの熱交換器に需要を開拓したいと考えております。

「人材育成」については、会員企業の技術者・研究者を対象とした「中核人材育成講座」を今年度は初めてオンラインで開催しました。材料、溶解 casting、熱処理、加工の4コースとも多くの受講者があり、大きな混乱もなく無事に終了致しました。本年は対面での開催を前提としつつ、コロナ感染の状況によってはオンラインにするなど、柔軟に対応したいと考えております。

また、大学への研究助成を通じ、業界の将来を担う人材の発掘と育成を図っていく活動についても引き続き注力し、会員企業の研究者・技術者が講師となって大学への出張講座も継続して取り組んでまいります。

「広報活動の強化」については、ツイッター、フェイスブックなどソーシャル・メディアの積極的な活用を進めております。特にツイッターは、缶や自動車など消費者の身近な分野におけるアルミ関連の最新情報を定期的に更新しております。新たに始めたクイズキャンペーンでは初回に 800 名を超える応募を頂き、フォロワー数も飛躍的に増加しました。また、昨年より新たな取り組みとしてアルミ缶のリサイクルをテーマに「アルミ缶アートコンテスト」と称し、アルミ缶を使った造形物やポスター、写真、動画などを募集し、多数の応募を頂きました。こうした活動を通じて、少しでもアルミニウムの裾野を広げていければと考えております。

改めて申し上げるまでもなく、安全は全てに優先する事項であります。「製造業安全対策官民協議会」を通じた産業安全への取り組みにより、災害発生の低減に努めてまいります。意欲ある大学との産学連携、標準化事業などの重要事業も、継続して取り組んでいく所存です。

SDGs やカーボンニュートラルに関連して環境問題、リサイクルがクローズ・アップされている昨今、優れたリサイクル性を有するアルミニウムの特性が注目され、他素材からアルミ製品に切り替える動きが出つつあります。こうした流れが続くことで少しでもアルミニウムの需要拡大に繋がればと考えます。

最後に、日本のアルミ産業の益々の発展、そして今年一年が素晴らしい一年となることを祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

以 上